

立命館経済學

第十八卷 第一号

昭和四十四年四月

内 容

論 説

- 河上・経済学の今日的意義……………相 澤 秀 一 1
ルール石炭鉱業の展開とプロイセン鉱業法（完） ……川 本 和 良 15

研究ノート

- 資本論における方法と世界観（上）……………梯 明 秀 63
—その残された諸問題の一つについて—
共同研究室…………… 114

立 命 館 大 学 経 済 学 会

立命館経済学

第十七卷・第二号

論説

ルール石炭鉱業の展開とプロイセン

鉱業法(二)

川本和良

研究

近代経済学批判の目的と方法、そして近代経済学の性格規定について

の若干の考察(その二)

小野進

—関恒義著『現代資本主義と経済理論』の所説に関連して—

資料

調整期における国民経済と対外

貿易

松野昭二

ヴェ・エス・ネムチーノフ

会的分業の静学モデル

小野一郎

共同研究室

発行所 立命館大学経済学会

立命館経済学

第十七卷・第三・四号

論説

箕浦格良教授還暦祝賀論文集発刊

に憶う

武藤守一

マルクスの国家観と財政論

大谷政敬

産業資金と国家資金

小牧聖徳

A・デ・ヴィテイ・デ・マルコの

財政理論

西村正幸

—その公共財生産理論を中心として—

近世京都商人邦波家の江戸店経営

とその没落について

足立政男

わが国の出生性比の上昇について

関 弥三郎

シユムペーターモデルの再検討(上)

浜崎正規

—開発理論形成のための適応論争をめぐって—

箕浦格良教授 略歴・主要著作目録